

ほぼ毎週に **えねるぎっしゅ**

〈v o l . 1〉 2001. 12. 20

あすかエネルギーフォーラム ***** 気まぐれ不定期刊 *****

ニュースレター『えねるぎっしゅ』発行にあたって

あすかエネルギーフォーラム代表 秋庭悦子

2001.11.22(木)、秋晴れの福島市で開催いたしました「エネルギートークサロン in ふくしま」は75名の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございました。

エネルギー問題に関心をもつ消費生活アドバイザーのグループ『あすかエネルギーフォーラム』は、数年間にわたってエネルギーについての勉強会や発電施設見学などを行ってきました。そのなかで、消費者が主体的に考え声をあげることの大切さを痛感。企業・行政・消費者の三者をつなぐ「消費生活アドバイザー」の視点から、発信し、幅広く活動したいと思うようになりました。

立場や考え方は違っても、同じ生活者として話し合うことから、見えてくるものがきっとあるはず。

そんな想いから企画した“エネルギートークサロン in ふくしま”が好評をいただき、これを機に、ニュースレターを発行することになりました。

当日参加いただいた方やご協力くださった皆様に、あらためて感謝申し上げます。

“エネルギートークサロン in 福島”

『このままでいいの？
エネルギーと暮らし』
講演 木元 教子氏



講演を聞いて 秋庭悦子

木元先生のお話は、今話題の狂牛病問題で始まり、高齢社会や省エネルギー、原子力など暮らしの視点でエネルギーを考える上で、大変勉強になりました。要旨は以下のとおりです。

①省エネは大切だが、ケチケチするのではなく、無駄なく使おうと考えることが必要。「あれはいけない」「これはいけない」とは言わずに、自分が責任を持ってどう選択するかが大切である。②一生懸命に省エネをしても、高齢社会になり、世帯数も増えると、エネルギーの需要は増えていく。そうなるとエネルギーの供給が問題。日本の食糧自給率は約40%だが、エネルギーの自給率は約20%、準国産エネルギーの原子力を除くと約4%に過ぎない。米国カリフォルニアのような電力危機が起きないか心配である。エネルギーセキュリティーを考えると、せめて20%の自給率を維持するには、どのような選択をするべきか考えねばならない。③原子力に関しては「発電してください。けどどこには留意してください」という Yes but と「いやです。けど代替エネルギーが開発されるまでは、安全に留意して発電してください」という No but の人がいる。賛成の人も反対の人も同じテーブルについて、議論する必要がある。どんな暮らしをしたいのか、どんな国でありたいかは、それぞれに違いがある。お互いに話し合って、知恵を出し合って、それぞれの責任で選択する人生をおくれる良い国でありたいと思う。



写真提供：福島民友新聞(2001年11月24日掲載)

参加者からの感想



わかりやすくユーモアあふれる話が好評！

- ・木元さんのお話の中で、狂牛病・プルサーマル・原子力のあり方この3点の確かなお考えが聞いて良かった。むやみに危ないのではないという共通点。
- ・講演の内容が充実していて目からウロコでした。エネルギー・トークサロンは和やかな中にも目的意識のはっきりとした方の企画に感銘を受けました。とても素晴らしい良い機会でした。
- ・日本の食糧・エネルギー自給率の低さを知り、今後私達が自覚を持って使わなければと強く感じました。まずまず省エネに関心を持ちたいと思います。
- ・エネルギーが少ない日本は、一人一人が意識して自分の出来るところから節約しなければと思いました。今日は省エネのつもりで途中から歩いてきました。
- ・各国のエネルギーの自給率や食糧の自給率を知り日本の低さを改めて知らせれました。今できるところから省エネ？を始めていこうかなと思っています。



意見交換

オイルショック時より増えている電力消費

司会 オイルショックの頃、どうされていましたか。

参加者 長女が小児科に入院。灯油を個人で用意するよう言われ雑貨屋に行ったのですが一斗缶の半分しか買えませんでした。

参加者 灯油の値段の高い所と安く売っている所がありました。田舎で店との結びつきが強かったため、共同購入は出来ない状況でした。

司会 その頃に比べて電化製品は増えましたか

参加者 三人家族ですが、夫が病気になって洗濯物が増え洗濯機も冷蔵庫も大型です。電化製品は増え、こまめに電気を切りたいと思うのですが、なかなか実行できません。

省エネは私たちの義務

司会 電気の大消費地に住む方、エネルギーについてどのように思いますか。

メンバー ウズベキスタンに赴任して5年になる夫は、粗食に耐えられ、暑さ寒さにも強く冷暖房が不要です。でも電気をこまめに消すことができません。便利グッズに囲まれた私たちは、知らず知らずその操作技術を身に付けているようです。エネルギー消費地に生きる人間として省エネ行動が義務ではないかと思えます。

留学生 タシケントのマンションは、秋から春までセントラルヒーティングが入っています。福島はそれが無く、寒くて困っています。

司会 電気の生産地、福島に住む方は、エネルギーについてどのように思いますか。

メンバー 県内に水力・火力・原子力の発電所、風力発電の風車もあり、エネルギーの話題には事欠きません。私は戦中戦後のモノ不足、停電が続く一時期を体験。映画館で停電になると1時間でも暗い中でただじっと待っていました。今は便利で快適な生活を送り、エネルギーを使うだけの人になっていて反省することの多い毎日です。福島県に住んでいてもこれまで、電源地域の方々のさまざまな思いや問題を進んで聞こうとはしてなかったし、伝わってもきませんでした。勉強会や発電所見学の活動を通して、地元の方々との新しい交流ができ、後は情報交換しながらエネルギーや環境問題などの勉強をしていきたいと思えます。



東京に送られる電気の故郷は大熊町

司会 原子力発電所がある町に住む方の暮らしはどのようなのでしょうか。

参加者 福島第一原子力発電所がある大熊町から来ました。施設は立派で大きく存在感はありますが、原子力と向き合って暮らしているという実感はありません。皆さんと同じように普通に暮らしています。安全であると信じていなければ住めません。一方、危険とうるおいには裏腹なところも。原子力発電所を無くしたり止めるわけにはいきませんから理解しながら、機会があるごとに安全には十分気をつけてくださいと言い続けてきました。私たちの年代で終わることではありませんので常に家庭でも話し、子どもにも教えています。東京の皆さんにはあまり知られてないようですが、電気を送っている所は大熊町ですと伝えて下さい。

知ること、考えること、伝えることが大切

司会 原子力発電所を初めて見学された方の感想は。

参加者 科学技術は発達しているので大きな施設内の安全対策は十分されていると思います。東海村の事故は人為的な単純ミスでしたが、そこで働く人が危険性を知らなかったことが一番の問題。何か起こった時の対策まで私たちが知ることができたら、もっと安心して生活できると思います。情報を隠すことが問題になっていますが、私たち自身が積極的に勉強していきたいと思います。

参加者 原子力は自分の生活とかけ離れたことだと思っていました。見学して、エネルギーのことを考えなければ、子どもに伝えなければと感じました。電気エネルギーは今後かなり必要。原子力発電について反対・賛成派が相互に理解しながら、何を省エネしていけばいいか討論していきたいと思えます。



自給率の低さに驚きました

司会 エネルギーや環境問題について、ご意見を。

参加者 日本のエネルギー自給率が20%、原子力を除くと4%という少なさに驚きました。これからもっと勉強していきたいと思います。

参加者 楽しく聞かせていただくうち、いろいろなことがわからなくなったのですが、それでも核に対しては No but です。プルサーマルに対して簡単に Yes と言っていいのかどうかと思います。ゴミの貯蔵がどうなるか、Yes と言えるようなシステムになるといいなと思います。県民としてもっと勉強すべきかなと思いました。

参加者 定年後、車であちこち行っています。発電所を見て、どうしてこんなに巨大な設備が必要なのか、供給の仕方を考えていった方がいいのではないかと思った。

安全な電気に頼らざるを得ませんが…

参加者 家族が高齢化すると介護の手が足りず、電化製品に頼らざるを得ない現実があります。省エネを考えたくても、努力するところまで頭も手も回らないのです。いい方法があればと今回参加いたしました。

参加者 私自身も含め、高齢化に向かって電化製品が増えるのは仕方ないと思います。ガステーブルで火傷した友人がいて、安全を考えると電気に頼らざるを得ません。原子力発電所は、危険とかよりも情報を正確に速く国民に伝えないために信頼性が失われていると思います。そこがきちっとされて国民の信頼が回復していけば、原子力に対する認識が違うのではないかと思います。

司会 誰かに言われるのではなく、自分自身で考えることが大切ですね。私たちはこれから皆様と一緒に考える機会を作ればと思っています。本日は、ありがとうございました。

(発言はそれぞれ要約)



皆様からのご意見・ご感想

「ウズベキスタンからのお客様のエネルギーや環境の話をもっと聞きたかった」

「参加者が高齢の方が多く、もっと若いお母さん方が出席できる時間帯に設定できると良かったのでは」

「原発問題、特に地元の話が印象的」

「年と共に省エネ意識が薄れていたが、今日はそんな怠け心にカツを入れる良い機会になった」

「原子力発電施設は30年以上過ぎて老朽化し見直しの時期にきていると思う。原発の廃棄物はなぜ東京に置け

ないのか。辺地に押しつけず、もっと安全にリサイクルするなどできる方法はないか。人間として倫理上奢ることなく、世界的レベルで考えて欲しい」

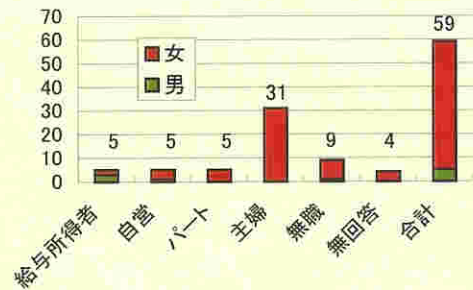
「資源の再利用がもっとできないだろうか、これから考えていきたいと思います」

「原子力に関してずっと関心をもち続けています。住み良い環境を望み電化住宅を考えますが、原子力発電をこのままのスピードで続けて行くのも危惧をもちます。何とか節約を続けながら、発電所を増やさないでいけるような方策を打ち出せないものかと強く思います」

「エネルギー問題は私たちの暮らしに密着したことなのについ難しそうで敬遠している毎日です。今日、気づかせてもらった気がします」

《アンケート結果》

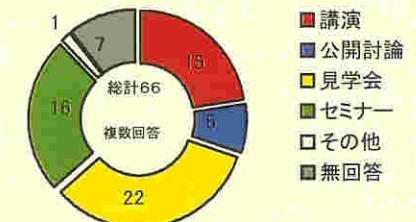
出席者75名のうちアンケート回収率78.6%(59件)、自由回答数36件(回答者の66%)。驚くべき回答率でした。



参加の動機



今後希望する参加形式



メンバーからの 言わせて！

老いも若きも一緒に考えた“エネルギーのこと”。

みちのくの晩秋、会場は熱く燃えました。著名な木元女史の巧みな話術にひきこまれ、笑いのうちにいろいろと、しっかりと勉強してしまった私です。しとやかで控えめ？な福島の女性が堂々と自分の考えを話すのを見て、これ、これっ！私の求めていたのは…。そして“参加してよかった”とのうれしい電話が何本も。みなさま～、本当にありがとう～。（福島支部長：渡辺信子）

原子力発電所から消費地に向かっている送電線を見て、初めて「そうか、私たちの生活の便利さはここから送られてくるのか」と実感。エネルギー問題を単に知識として受けとめるのではなく、個々人の生活をスタートとして考えることが必要だと思っています。生産地と消費地、情報を発信する側と受ける側がコミュニケーションする場を作ることを目指して、『あすかエネルギーフォーラム』を結成しました。（秋庭悦子）

地元の「ごみ対策市民委員会」に参加した私にとって「ごみ」の最終処分地の定まらない原子力発電は容認できないもの。家を建替える際、自然エネルギーを取り込むことを基本に、標準家庭の2/3の電気（原子力以外の発電）で暮らすのを目標に設計を依頼しました。が、埼玉県の電気はほぼ100%他県なかでも40%以上が福島の原子力発電から供給されていること、生産された電気は一瞬に融合し原子力製も火力製も水力製も選んで使うことはできないと知った時は、独りよがりの脱原発を全否定され大ショック。皆に自分の電気のルーツを知って欲しい。どのような発電方法を支持するのか、そのためにはどのように暮らすのか、じっくり考えて欲しい。消費者が自発的に選択し同意できるエネルギー政策を目指して、皆さん一緒に勉強しましょう！（川西則子）

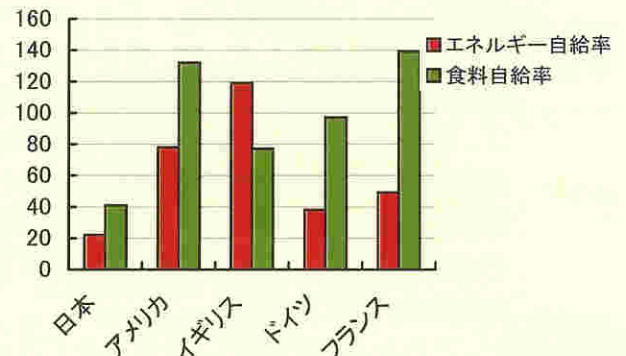
エネルギー問題について、国の政策や企業・専門家の考え方と生活者の意識に大きな差を感じていました。が、何が正しいのかわからず知識不足を自覚。自分の考えをもつために勉強会や見学に参加したのが『あすかエネルギーフォーラム』に関わるきっかけです。今回、福島の方々のおかげで、私たちの気持ちを形に表わすことができました。これを今後の活動につなげたいと思います。（高橋峰子）

本音で語る秋庭代表の人間性に魅かれ『あすかエネルギーフォーラム』に参加。同時期、ウズベキスタン赴任5年目の夫を通し「発展途上国」の生活実態を知りました。この二つが合流、麻痺していた私のエネルギー大量消費感覚に「渴」が入ったのです。原発立地柏崎の「トルコ文化村」、福島の「ウズベキスタン文化経済交流協会」の存在は、私を『あすか』へさらに歩み寄せ、地球規模でエネルギー問題を考える契機になりました。（寺尾千之）

介護関係の仕事で100人以上のお年寄りに会っています。いずれは我が身と思うと、環境整備の必要性を痛感します。それを維持する裏付けも不可欠。エネルギーは重要な要素です。個人の生活と社会全体の課題、両方から考えたいと思います。（中野和江）

エネルギーに強い関心を持っていた訳ではありませんでした。パソコン購入まもない頃、mailで応募のエネルギーアドバイザーに。勉強会等の参加を重ねているうちに、“日本のエネルギー事情”を知り、「ただ、使っているだけの消費者でいいの？」という疑問が湧いてきました。恵まれた国に暮らしている者として、一人一人が知り・考え・行動することが大切ではないかと。（溝辺民子）

知っとく情報！



OECD 主要国のエネルギーと食料の自給率 1998年

あなたの身近なグループで「エネルギー・環境問題」についての勉強会を開いてみませんか？

資料・講師など、お問い合わせ・ご相談は

『あすかエネルギーフォーラム』

(代表：秋庭悦子)

〒215-0024 神奈川県川崎市白鳥 3-11-2-4

Tel & Fax 044-987-1522

(福島支部長：渡辺信子)

〒960-0116 福島市宮代字北口 14-11

Tel & Fax 024-553-0721

エネルギー・環境問題や、私たち『あすかエネルギーフォーラム』の活動に興味をおもちの方に、今後発行するニュースレター“えねるぎっしゅ”をお送りします。ご希望の方は上記までご連絡ください。